

血中ウロモジュリン・トライアルキャンペーン

新しい腎バイオマーカーをお探しの医療機関・研究機関様へ
～期間限定の特別価格でお試しいただけます



血中ウロモジュリンは、腎臓の生命力を「見える化」する新しい腎バイオマーカーとして注目されています。ぜひこのキャンペーンをご利用いただき、導入検討にお役立てください。

● キャンペーン期間

2026年1月13日～3月31日

● キャンペーン内容

血中ウロモジュリン測定を特別価格で検査受託いたします。

● ご利用条件

これまでに、弊社へ検査依頼をしたことのない医療機関・研究機関様。
(過去のキャンペーンやスペシャルオファーでのご利用を除きます)

● 特別価格

■ 2026年1月12日～2月18日に弊社受領分 ⇒ 1検査あたり税抜 ¥ 3,000

■ 2026年2月19日～3月31日に弊社受領分 ⇒ 1検査あたり税抜 ¥ 4,000

* 5検体以上ご依頼いただくと、さらに10%引き(同一発送分に限りませう)。

* 送料はご負担ください。



RenoProtect

ご依頼手順

■検体採取

通常の採血手技で採取した血液を生化学検査用採血管に分注してください（採血管容量は不問）。可能な限り貴施設で遠心操作による血清分離を行ってください。分離血清を検体チューブ等の小分け容器に入れて送っていただいても構いません。保存血清での測定も承ります（保存条件は不問）。

■検体必要量

採血管のまま送る場合には、1本分の検体採取をお願いします。
血清を検体チューブに移して送る場合の検体量の目安は、200～500 μ Lです。

■検体ラベル

油性ペンで採血管もしくは検体チューブに直接記名してください。貴施設で使っている検体ラベルを貼付していただいても構いません。

■検体梱包

万が一、採血管や検体チューブが破損しても検体を吸収できる十分量のペーパータオルなどの吸着剤とともにラップフィルム（サランラップ・クレラップなど）で採血管ごと包み、チャック付き袋に入れてください。発泡スチロール箱で送る場合は、箱内部の底もしくは側面に養生テープ等を用いて検体を固定してください。また、クッション封筒での発送でも構いません。

■検体輸送

可能な限り検体採取した同日中に発送手配してください。
上記のようにしてチャック付き袋に入れた血液検体（採血管もしくは検体チューブ）と検査依頼書（書類はチャック付き袋の外に入れてください）を下記へ『**チルドゆうパック**』でお送りください（その他の宅配業者を利用したい場合はご連絡ください）。保存検体（凍結検体）を送られる場合には冷凍での手配をお勧めします（ドライアイスは任意）。

配送手続き完了後、必ず弊社にご連絡ください。

電話は「平日10:00～17:00」にお願いします（土日祝日は非営業日）。
ご連絡はメール（inquiry@renoprotect.co.jp）でも構いません。

〒164-8799 東京都中野区中野2-27-1

中野郵便局留め

株式会社レノプロテクト（担当：臼井）

電話番号：03-6382-8133

■採血器具と検体容器

有料で提供可能です。必要に応じてご相談ください。



RenoProtect

測定方法

サンドウィッチ型ELISA法

基準値

診断のための検査ではないため、正常及び異常に関する基準値設定はありません。参考値は検査チラシ、または、弊社ホームページをご確認ください。

結果報告書

検体受領日を起算日として14日以内に郵送で依頼書に書かれた宛先に発送します。郵便配達都合により、お届け日が14日を多少越える可能性があります。複数検体をご依頼の場合は、代表者様へまとめてお届けします。
（報告書の個別発送はいたしません）

請求書とお支払い

結果報告書とともに送ります。検査月の翌月末までにお振込みください。振込手数料はご負担ください。また、請求書の宛名は、ご施設名で発行します。

領収書

領収書が必要な場合は、お支払い後に弊社までご連絡ください。入金確認後に発行いたします。連絡がない場合には発行いたしません。

お問い合わせ

検査の依頼方法、検査結果、お支払い、ご契約等に関するご相談は下記連絡先へお願いします。e-mailでのご相談の場合、弊社からのメールが迷惑メールフォルダに入ることがありますので受信設定をご確認ください。

注意事項及びキャンセルポリシー

- ・血清検体をご提出ください（血清と血漿で測定濃度が変わります）
- ・測定に係る必要検体量はごく少量ですが、採血管用量に対して適切な検体量を分注するようにお願いします。
- ・多少の溶血は測定に影響しませんが、極めて高度の溶血など検体の状態が著しく悪いことで測定に影響が及んでも弊社は責任を負いかねます。
- ・本検査は体外診断用医薬品ではなく研究検査です。臨床診断に用いることはできません。
- ・採血管や検体チューブの破損により荷物を血液汚染させた場合、弊社はそれに関する責任を一切負わないものとします。その場合、検体の再提出もしくはキャンセルのいずれかを選択することができます。
- ・検体受領後のキャンセルは原則としてお受けできません。



株式会社レノプロテクト
東京都中野区中野5-23-12-306
担当者：臼井亮介
03-6382-8133
inquiry@renoprotect.co.jp

検査依頼書

～血中ウロモジュリン測定・キャンペーン用～

検査受診者情報

患者名	(セイ)	(メイ)
生年月日	(西暦) 年 月 日	年齢 満 歳
性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	
検査項目	<input checked="" type="checkbox"/> 血中ウロモジュリン	
検体採取日時	(西暦) 年 月 日 時頃	
検査依頼者	先生 (ご施設名)	
口座名	<input type="checkbox"/> 検査依頼者と同じ <input type="checkbox"/> それ以外 ()	
連絡先	(電話番号・e-mail)	

■注意事項

- ・複数検体同時に依頼される場合、一検体につき一枚の依頼書が必要です (口座名・連絡先については代表者様のみご記入ください)。
- ・匿名化検体の場合、氏名ではなく匿名化 ID でも構いません (その際、生年月日・年齢・性別・検体採取日時は空欄でも構いません)。
- ・請求書の宛名は、ご施設名で発行します。口座名は検査費用のお支払いにあたり、ご施設名と異なる名義人口座からお振込みになる場合にご記入ください。

検査依頼・お問い合わせ

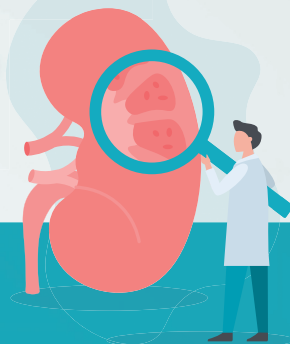
株式会社レノプロテクト
東京都中野区中野 5-23-12-306
TEL: 03-6382-8133

受領確認者



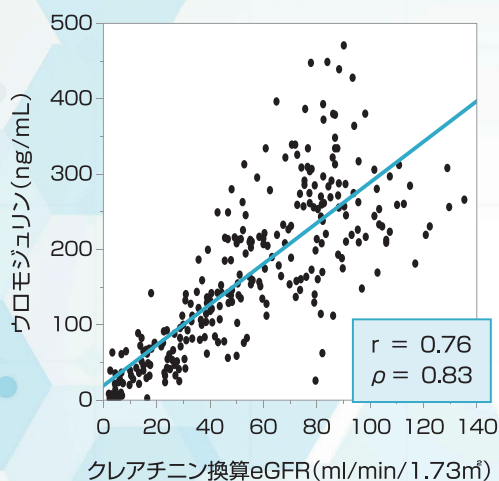
ウロモジュリン

uromodulin



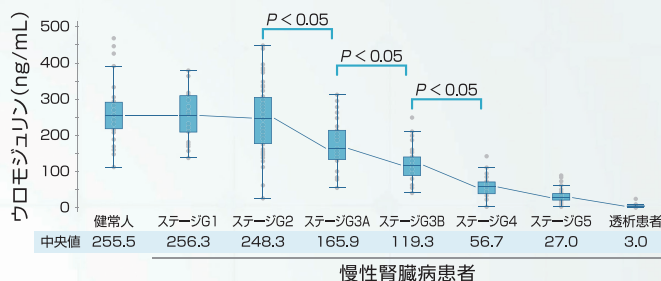
ウロモジュリンは、腎臓だけで作られる臓器特異性の極めて高いタンパク質。若く健康な腎臓ほど多く作られ、加齢や病気によって徐々に減っていきます。腎臓がどれだけ元気に働いているか、“見える化”できる新しい指標です。

血中ウロモジュリン濃度と推算糸球体ろ過(eGFR)には、高い正の相関があります。腎機能が良くと高く、悪いと低くなるウロモジュリンは、従来の腎機能評価検査(クレアチニン・シスタチンC)とは逆の動きで腎臓の働きを捉えます。



Clin Exp Nephrol. 2021;25:28

慢性腎臓病ステージ別に血中ウロモジュリン濃度の中央値を解析すると、腎臓病の進行によりウロモジュリンが低下することが分かります。年齢とともに腎機能が少しずつ低下するのと同じように、ウロモジュリンも長期的にはほとんどの方で徐々に低下していきます。

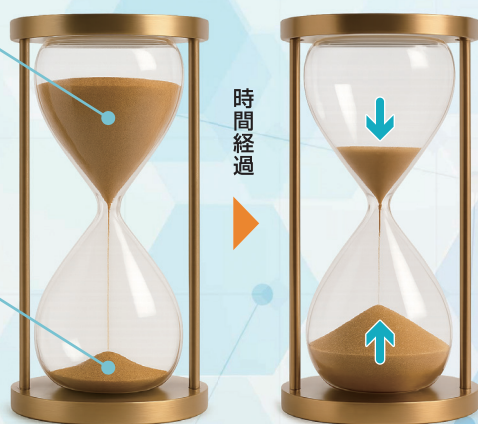


腎臓病を診断する検査ではありませんが、以下の傾向があります。

- 200~400ng/mL：十分な腎機能がある(eGFR>60)
- 150ng/mL未満：慢性腎臓病(eGFR<60)を示唆
- 30~40ng/mL未満：末期腎不全(eGFR<15)を示唆

ウロモジュリンと従来検査(クレアチニン・シスタチンC)の違い

- ウロモジュリン
 - 腎機能
- ||
- 腎臓の働き・生命力
-
- クレアチニン
 - シスタチンC
- ||
- ろ過された老廃物



砂時計をイメージしてください。上段の砂がウロモジュリンと腎機能、下段の砂がクレアチニンとシスタチンCです。

砂時計ごとにその大きさ、砂の量や落ちる速度が異なるように、生まれもつての腎臓の強さはけっして均一ではありません。この個体差を反映し、若く健康なときの血中ウロモジュリン濃度は200~400ng/mLと人によって様々です。しかし、砂時計では時間とともに砂が上から下へと落ちていくように、腎機能とウロモジュリンも加齢とともに緩やかに低下していきます。また、砂時計はひっくり返せば上段の砂を再び増やせますが、腎機能とウロモジュリンは戻すことはできません。

一方、下段の砂から上段の砂の正確な残量(腎機能)を知ることはできませんが、おおよその残量は予測可能で、それが推算糸球体ろ過量(eGFR)です。

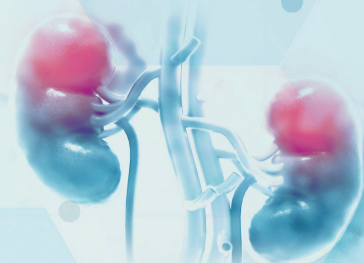
できるだけ若く健康なときにウロモジュリン最大値を知っておくことはとても価値があります。一方で、若さのピークを越えて加齢変化を感じている中高年者であっても、初回測定値がそれ以降の人生の中で最も高い値をとり、これが基準値となることに変わりはありません。

腎臓にとってのリスク疾患(糖尿病や高血圧症など)を持病とする方はもちろん、持病がない健康な方や腎臓に漠然とした心配や不安がある方も、まず初回測定値を確認しておくことが将来を見据えた健康管理に役立ちます。

慢性腎臓病(CKD)を知っていますか？

2024年の推計で国内患者数は2,000万人、成人5人に1人が診断基準に該当していることが日本腎臓学会から報告されました。CKDの早期発見や重症化予防、ひいては透析患者数抑制のために、日本腎臓学会が中心となり様々な施策が行われています。早期発見には定期的な健康診断が推奨されています。しかし、一般的な腎機能評価検査クレアチニンは腎機能が約半分まで低下しないと機能低下を検出できない検査限界があることと、健康診断では腎機能(eGFR)の経年変化に対してアラート機能が働かないことが問題

です。つまり、毎年健康診断を受けていても気づいた時には腎機能は半分しかないということが起こります。そして、腎機能は原則的に回復しないことを知り、驚かれる方も少なくありません。本来、CKDにならないことが望まれます。ウロモジュリンは健康なときから腎臓の生命力や若さを見える化する新しい検査です。毎年の健康診断とともに、ウロモジュリンの定期測定を加えてみてはいかがでしょうか。



エイジング評価検査として使ってみませんか？

30歳を過ぎると身体能力の低下を感じるがあると思います。実は腎臓においても、この頃から組織の老化や機能の低下が始まります。ウロモジュリンは、その変化をやさしく見守る“健康のパロメーター”です。ウロモジュリンの特徴である「検査値が臓器機能を反映し、若く健康なときに高く、加齢に伴い低くなっていく検査項目」はきわめてまれです。健康寿命の延伸を目的としたアンチエイジング(抗加齢)の施策には医療業界だけでなく、多くの業界が注目しています。そして、その一環として運動習慣や食事管理などに気をつけ

ている方は少なくないと思います。

CKDは医学研究において「老化加速モデル」と位置付けられており、腎臓は老化に大きく関わっている臓器です。アンチエイジングの取り組みで若々しく見えるようになることは素晴らしいですが、外から見えない体内臓器へのケアもとても重要です。エイジングをウロモジュリンで捉え、健康寿命について考える機会を増やしてみませんか。

結果報告書(サンプル)

血中ウロモジュリン 結果報告書

受診医療機関名
レノプロテクト腎クリニック

血中ウロモジュリン測定をお選びいただきありがとうございました。
検査結果を報告いたしますので、ご確認ください。

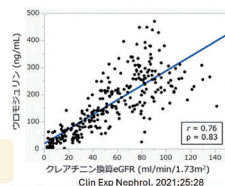
氏名	生年月日	年齢	性別	検査日
〇〇〇〇	xxxx/yy/zz	△△	男	aaaa/bb/cc

あなたの結果は

300 ng/mL

病気の診断には使えませんが、
おおよそ、次のような傾向があります。
正常及び異常の基準値設定はありません。

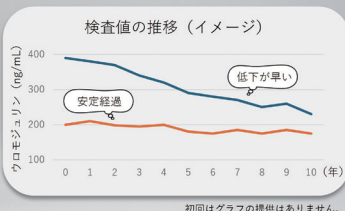
200~400ng/mL 十分な腎機能がある (eGFR>60)
150ng/mL未満 慢性腎臓病 (eGFR<60) を示唆
30~40ng/mL未満 末期腎不全 (eGFR<15) を示唆



ウロモジュリンは腎臓だけで作られる臓器特異性の極めて高いタンパク質です。腎機能は、およそ30歳をこえると、加齢に伴い緩やかに低下を始め、回復することはありません。同時に、ウロモジュリンの血中濃度は若いうちにピーク値を取り、長期的には徐々に低下していきます。

推算糸球体ろ過量eGFRは計算式で求めた推定値であるのに対して、ウロモジュリンは測定値そのものがあなたの腎臓の余力や生命力を示す実数値です。定期的に腎臓の生命力を「見える化」し、腎臓のエイジングを評価します^(*)。数値の推移から生活習慣や生活習慣病、アンチエイジングの取り組みの見直しに役立ててください^(*)。

^(*)医療機関での平均的な加齢変化・経年変化は年0.5%程度とされています。生活習慣や健康状態により変化します。
^(*)必ずしも未来予測ができませんと限りません。



初回はグラフの提供はありません。

RenoProtect

※実物と異なることがあります。また、デザインは予告なく変更します。

検査の受け方



● 医療機関で採血をするだけです。

(*)体調不良時は避け、体調が整っているときに受けることをお勧めします。体内水分バランスを乱すと測定値のばらつきが目立つことがあります。その他、薬剤や体調変化などに伴う検査値変動はほとんど分かっています。

(*)保険証が使えません。検査費用等については各医療機関にお問い合わせください。

測定頻度について

生活が安定し、生活習慣病などの持病がない健康な方では1~3年ごと、持病がある方や腎臓に心配や不安をお持ちの方は半年~1年ごとのチェックをお勧めします。

株式会社レノプロテクト RenoProtect は、
腎臓Renoを守るProtectための事業を進めています。



RenoProtect

株式会社レノプロテクト

E-mail: inquiry@renoprotect.co.jp

URL: https://www.renoprotect.co.jp

